

カヤツリグサ科スゲ属の3種の日本新産帰化植物

Three New Naturalized Plants of *Carex* L. (Cyperaceae) in Japan

勝山輝男

Teruo KATSUYAMA

Abstract. *Carex aenea* Fernald, *C. grvida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm. and *C. fissa* Mack. newly naturalized in Japan. *C. aenea* and *C. fissa* were collected from Tama-shi, Tokyo Metropolis, and *C. grvida* from Asao-ku, Kawasaki, Kanagawa prefecture and Tama-shi. They all are natives of North America and were probably brought to Japan together with seeds of grasses for slope plantation.

Key words: naturalized plant, *Carex aenea*, *Carex grvida*, *Carex fissa*

はじめに

東京都多摩市と川崎市麻生区の新興住宅地から *Carex aenea* Fernald (図1)、*C. grvida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm. (図2)、*C. fissa* Mack. (図3)の3種のカヤツリグサ科スゲ属の日本新産帰化植物が採集された。それぞれ和名をタモノヤガミスゲ、サヤシロスゲ、オオアメリカミコシガヤと新称して報告する。いずれも北アメリカ原産で、斜面の緑化に使われた牧草種子に混入して持ち込まれたものと推定される。

1. タモノヤガミスゲ (新称) *Carex aenea* Fernald, Proc. Amer. Acad. Arts 37: 480 (1902)

湿った草地や乾いた草地に生える多年草。叢生し、高さ約50cm。葉は花茎よりも短く、幅1-2.5mm。花序は長さ1.5-4cm、3-6個の無柄の小穂を、上方のものは接近し、下方のものはやや離れてつけ、苞葉は発達しない(図1-B)。小穂は卵形で長さ5-10mm、幅3-7mm、上部に雌花、下部に少数の雄花をつける。雌花の鱗片は披針形で先は尖り、長さ幅ともに果胞と同長で褐色を帯びる(図1-C)。果胞は披針形、長さ4-4.5mm、幅1.5-2mm、断面は平凸レンズ状、全体に狭い翼があり、その縁は小刺があってざらつき、背面は3-5脈、腹面はほとんど無脈で瘦果の縁にそって溝があり、嘴はやや長く偏平で、先は2歯となる(図1-D,E)。熟すと果胞の下半部が黒褐色を帯びる。瘦果は楕円形で2稜があり、長さ1.7-2mm、幅1.2-1.3mm、基部の柄はきわ

めて短く、先端に花柱基部が嘴状に長さ0.1mmほど残る(図1-F)。柱頭は2岐。

Gleason & Cronquist (1991) は *C. aenea* を *C. foenea* Willd. に含めているが、多摩市で採集された個体は、Mackenzie (1931) が *C. aenea* を *C. foenea* と区別する際の識別点とした、果胞が中央よりも基部よりで幅が広いこと、熟すと果胞の下半分が黒褐色を帯びること、鱗片が褐色を帯びることとよく一致するので、Mackenzie (1931) に従い *C. aenea* とした。

北アメリカ北部原産。北はカナダのニューファンドランド～ユーコン州、南は合衆国のニューヨーク州～モンタナ州にかけて分布する。

本種はヤガミスゲ節 *sect. Ovales* に属する。在来のヤガミスゲ節の植物はヤガミスゲ *C. maackii* Maxim. 1種のみであるが、北アメリカには多くの種があり、そのうち本種も含めて7種が日本に帰化または一時帰化の記録がある。本種の花序の外形は香川県から報告され(水田, 1990)、北海道、本州、四国、九州に帰化するアメリカヤガミスゲ *C. scoparia* Schk. ex Willd にきわめて似ているが、アメリカヤガミスゲの鱗片は果胞よりも明らかに幅が狭く、瘦果は長さ1-1.5mm、幅約0.7mmと小さい。

標本: 東京都多摩市鶴牧2丁目: May 21, 2000, 歌川道子 (KPM-NA0118785); May 28, 2000, 歌川道子 (KPM-NA0122067)。

2. サヤシロスゲ (新称) *Carex grvida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm., Amer. Midl. Naturalist 17: 855 (1936); *C. lunelliana* Mack., Bull. Torrey Bot. Club 42: 615 (1915)

乾いた草地に生える多年草。根茎は横走し、節間は短

勝山輝男 (Teruo Katsuyama)
神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
katsu@nh.kanagawa-museum.jp

い。茎は緩く叢生し、高さ 60-120cm、鋭三稜形で稜はざらつく。葉は花茎よりも短く、幅 3-7mm、鞘は緩く茎を包み、背面は白色を帯び、緑色の縦脈が目立ち、その所々に横断する緑色の脈が見られ、腹面は白膜質で破れやすく、ときに横断する皺が生じる(図 2-C)。花序は長さ 15-30mm、幅約 10mm、5-10 個の無柄の小穂を 1 節に 1 個ずつ密集してつけ、苞葉は発達しないが、下方のものには小穂より少し長い苞葉がある(図 2-B)。小穂は上部に少数の雄花、下部に多数の雌花をつける。雌花の鱗片は卵形で長さ 3-4 mm、先は鋭頭または短い芒となり、緑白色で褐色を帯び、中肋は緑色(図 2-D)。果胞は卵形または広卵形、長さ 3.5-4 mm、幅 2.5-3mm、断面は平凸レンズ状、縁は狭い翼があり緑色、背面は 3-5 脈があり、腹面は無脈で、両面ともに緑白色で熟すと淡褐色を帯び、嘴は果体の 1/3-1/4 の長さで、嘴部の縁はざらつき、先端は顕著な 2 歯となる(図 2-E,F)。瘦果は卵円形で 2 稜があり、長さ幅ともに約 2mm、基部は短い柄状、先端は円錐状の花柱基部が残る(図 2-G)。花柱は長さ 1-1.5mm、基部は円錐状に肥厚し、柱頭は 2 岐。

川崎市麻生区白山のやや離れた 2 ヶ所と東京都多摩市落合の計 3 ヶ所で確認された。*C. gravida* の果胞の幅には変異があり、果胞が卵形で幅が長さの 1/2 のものが var. *gravida*、果胞が広卵形で幅は長さの 3/4 ほどあるものが var. *lunelliana* とされる。最近の北アメリカの植物誌では、Yatskievych(1999)は両者には中間形があり区別できないとしているが、Gleason & Cronquist(1991)や Mohlenbrock(1999)は細分している。今回、採集されたものはすべて果胞の幅が広く、var. *lunelliana* にあたるので、ここでは細分する見解に従った。

北アメリカ中部原産。種としては北はカナダのオンタリオ州～合衆国のワイオミング州、南はケンタッキー州～ニューメキシコ州にかけて分布する。Var. *lunelliana* はやや南に偏って分布する変種でミシガン州、アイオワ州、カンザス州より南に分布する。英名は Heavy Sedge、和名は鞘が白色を帯びることから名付けた。

本種は Sect. *Bracteosae* に属す。Sect. *Bracteosae* は花序に密に小穂をつけ、小穂は基部に多数の雌花、上部に少数の雄花をつける点でミノボロスゲ節 sect. *Multiflorae* に近いが、乾いた場所に生え、小穂の数が少なく、1 節に 1 個の小穂をつけることが異なる。北アメリカで本種に近縁なものには *C. sparganioides* Muhl. ex Willd.、*C. aggregata* Mack.、*C. cephaloidea* (Dewey) Dewey があるが、いずれも雌花の鱗片は果胞の半長程度で、果胞は幅がやや狭く、熟しても緑色な点で異なる。在来の Sect. *Bracteosae* の植物はないが、リーベンボルシースゲ *C. leavenworthii* Dewey が同じ多摩市で採集されている(勝山・中里, 2000)。標本:川崎市麻生区白山4丁目, May 22, 2002, 平川恵美子・中山博子・勝山輝男(KPM-NA0122071, KPM-NA0122072); 東京都多摩市落合 1 丁目, May 27, 2002, 歌川道子 (KPM-NA0122073)。

3 オオアメリカミコシガヤ(新称) *Carex fissa* Mack., N. Amer. Fl. 18: 64 (1931)

湿地に生える多年草。茎は叢生し、高さ 60-100cm、鋭三

稜形で稜はざらつき、基部では径 4-6mm の太さがある。葉は花茎よりも短く、幅 3-6mm、鞘の腹面は白膜質で多数の横断する皺が生じる(図 3-C)。花序は長さ 3-4cm、幅 1-1.5cm、小穂は 1 節に 2-3 個ずつ 10-20 個が密につき、苞葉は発達しないが、下方のものにはときに小穂よりもう少し長い苞葉がある(図 3-B)。小穂は上部に少数の雄花、基部に多数の雌花をつける。鱗片は長楕円形で長さ 3-3.5mm、先は上方のものでは鋭頭、下方のものでは長さ 1mm ほどの芒となり、熟すと褐色を帯びる(図 3-D)。果胞は広卵形、長さ 3.5-4mm、幅 2.5-3mm、断面は平凸レンズ状、縁は狭い翼があり、背面は明瞭な 3-5 脈があり、腹面には不明な 3 脈があり、嘴は果体の 1/3 ほどの長さで、嘴部の縁はざらつき、先端は小 2 歯となる(図 3-E,F)。瘦果は卵円形で 2 稜があり、長さ約 2mm、幅 1.5-1.8mm、基部は太く短い柄があり、先端には円錐状の花柱基部が残る(図 3-G)。柱頭は 2 岐。

北アメリカ中南部原産。合衆国のミズーリ州、カンザス州、オクラホマ州、テキサス州などに分布。

本種はミノボロスゲ節 sect. *Multiflorae* に属し、川崎市麻生区で記録されたアメリカミコシガヤ *C. brachyglossa* Mack. や神奈川県相模湖町で記録されたナガバアメリカミコシガヤ *C. vulpinoidea* Michx(勝山, 2001)によく似ているが、アメリカミコシガヤやナガバアメリカミコシガヤの茎は基部で幅 2-4mm と細く、果胞は長さ 2-3mm と小さい。

標本:東京都多摩市唐木田3丁目: Jun. 24, 2001, 歌川道子 (KPM-NA0122068, KPM-NA0122070); May 24, 2001, 歌川道子 (KPM-NA0122069)。

謝辞

タマノヤガミスゲの標本を提供された歌川道子氏、サヤシロスゲの生育地に案内して下さった平川恵美子氏、標本採集に同行して下さった中山博子氏に感謝申し上げます。また、同定にあたっては国立科学博物館の標本を閲覧させていただいた。閲覧に際しては近田文弘氏と秋山忍氏にお世話になった。感謝申し上げます。

引用文献

- Gleason, H.A. & A. Cronquist, 1991. Manual of Vascular Plants of Northeastern United States and Adjacent Canada, Second Edition. lxxv+910pp. New York Botanical Garden, New York.
- 勝山輝男・中里秀行, 2000. 日本新産の帰化植物リーベンボルシースゲ. 植物分類地理 51: 234-236.
- 勝山輝男, 2001. スゲ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001. pp.442-482.
- Mackenzie, K.K., 1931-1935. Cyperaceae-Cariceae. *North American Flora* 18: 1-478. New York Botanical Garden, New York.
- 水田光雄, 1990. アメリカヤガミスゲ. 香川植物の会会報, (221): 4505-4508.
- Mohlenbrock, R.H., 1999. The Illustrated Flora of Illinois, Sedges: *Carex*. 328pp. Southern Illinois University Press, Carbondale and Edwardsville.
- Yatskievych, G., 1999. Steyermark's Flora of Missouri, reviced ed. 1: 1-991. The Missouri Department of Conservation, Jefferson City.

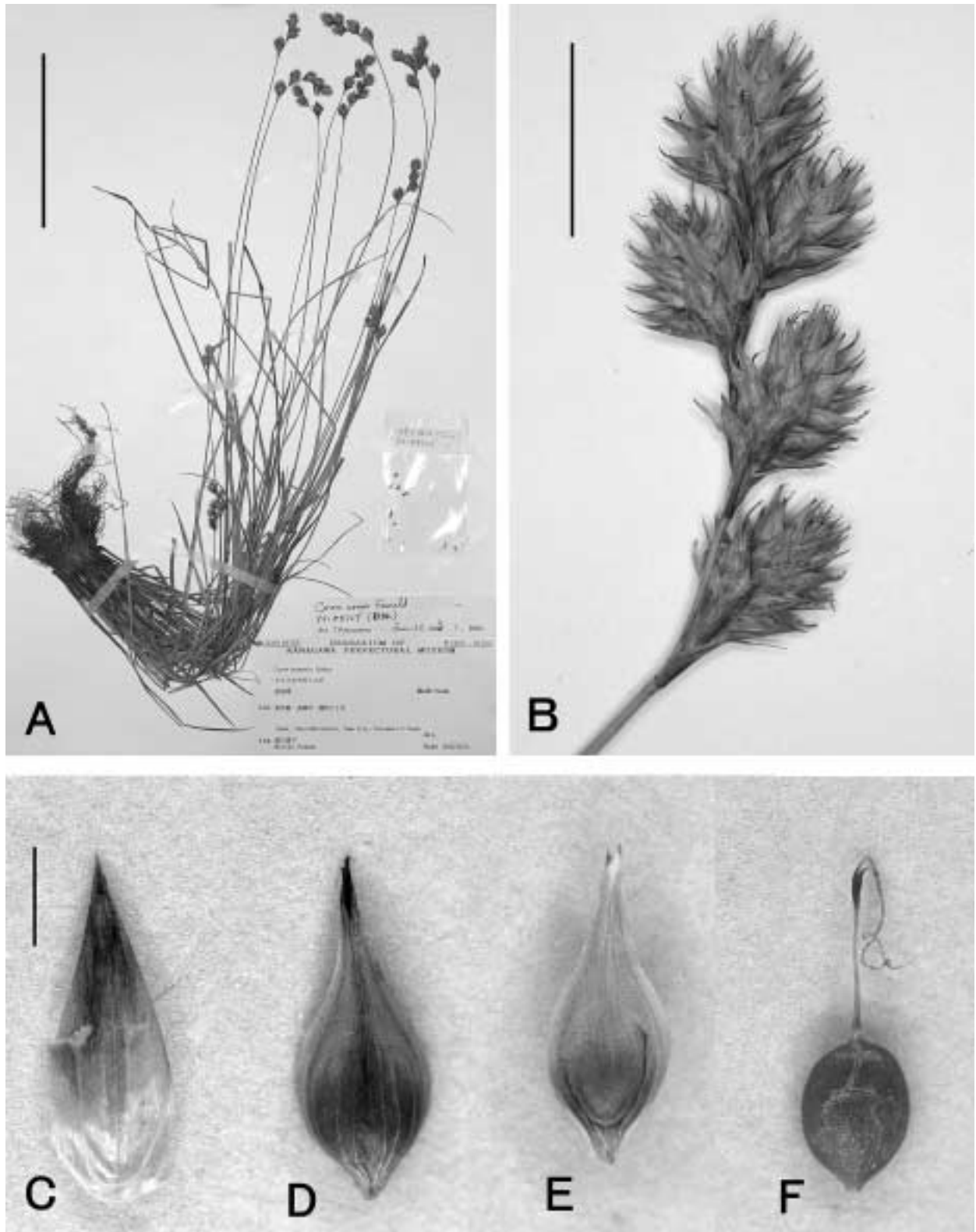


図1. タマノヤガミスゲ *Carex aenea* Fernard

A: 全形 . B: 花序 . C: 鱗片 . D: 果胞 (背面) . E: 果胞 (腹面) . F: 瘦果 . スケール, A: 10cm, B: 1cm, C-F: 1mm.

Fig. 1. *Carex aenea* Fernard

A: Plant. B: Inflorescens. C: Pistillate scale. D: Perigynium (dorsal view). E: Perigynium (ventral view). F: Achen. Scale, A: 10cm, B: 1cm, C-F: 1mm.

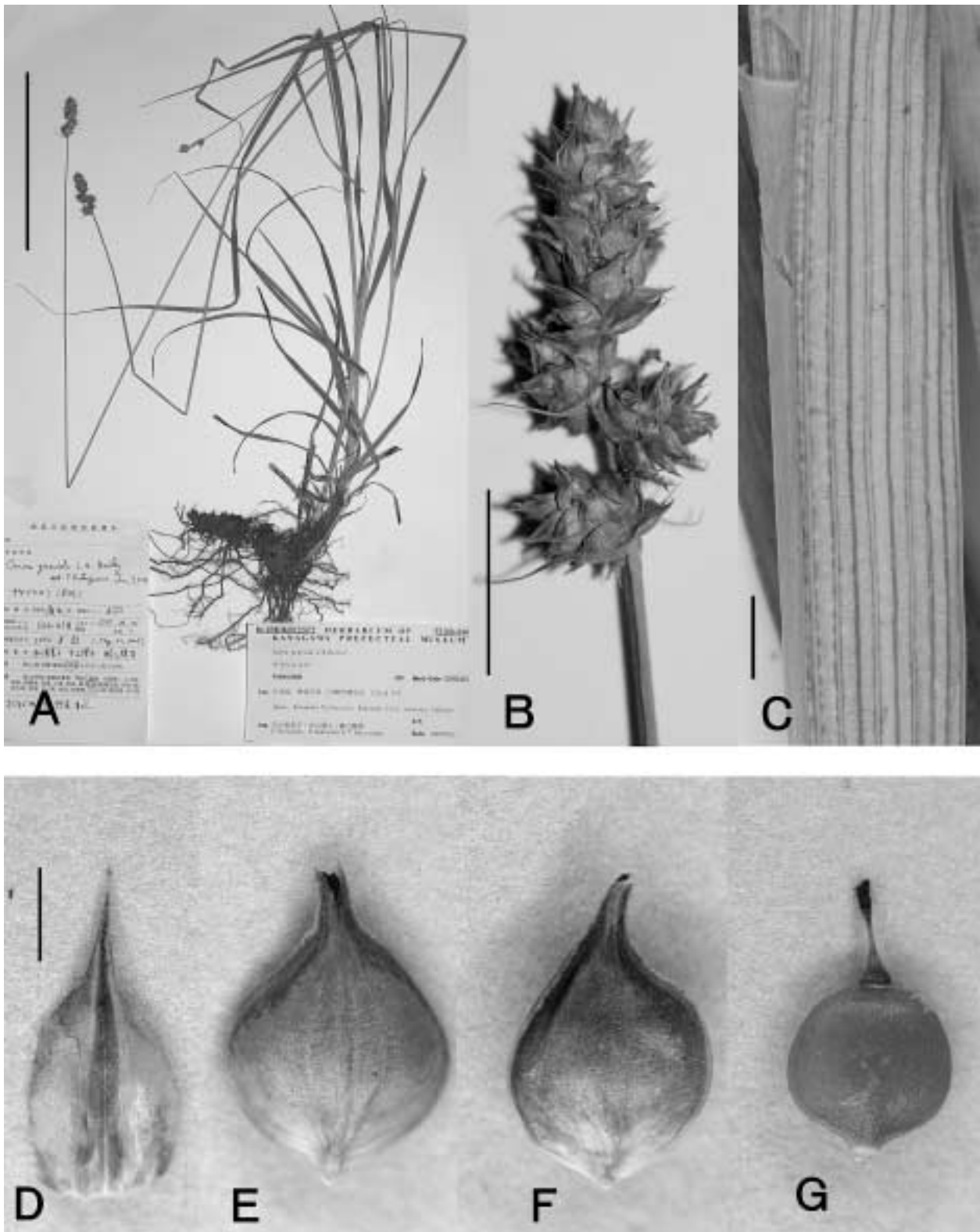


図2. サヤシロスゲ *Carex gravida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm.

A: 全形 . B: 花序 . C: 鞘 (側面) . D: 鱗片 . E: 果胞 (背面) . F: 果胞 (腹面) . G: 瘦果 . スケール, A: 10cm, B: 1cm, C: 1mm, D-G: 1mm.

Fig. 2. *Carex gravida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm.

A: Plant . B: Inflorescens . C: Sheath.(side view) . D: Pistillate scale . E: Perigynium (dorsal view) . F: Perigynium (ventral view) . G: Achen. Scale, A: 10cm, B: 1cm, C: 1mm, D-G: 1mm.

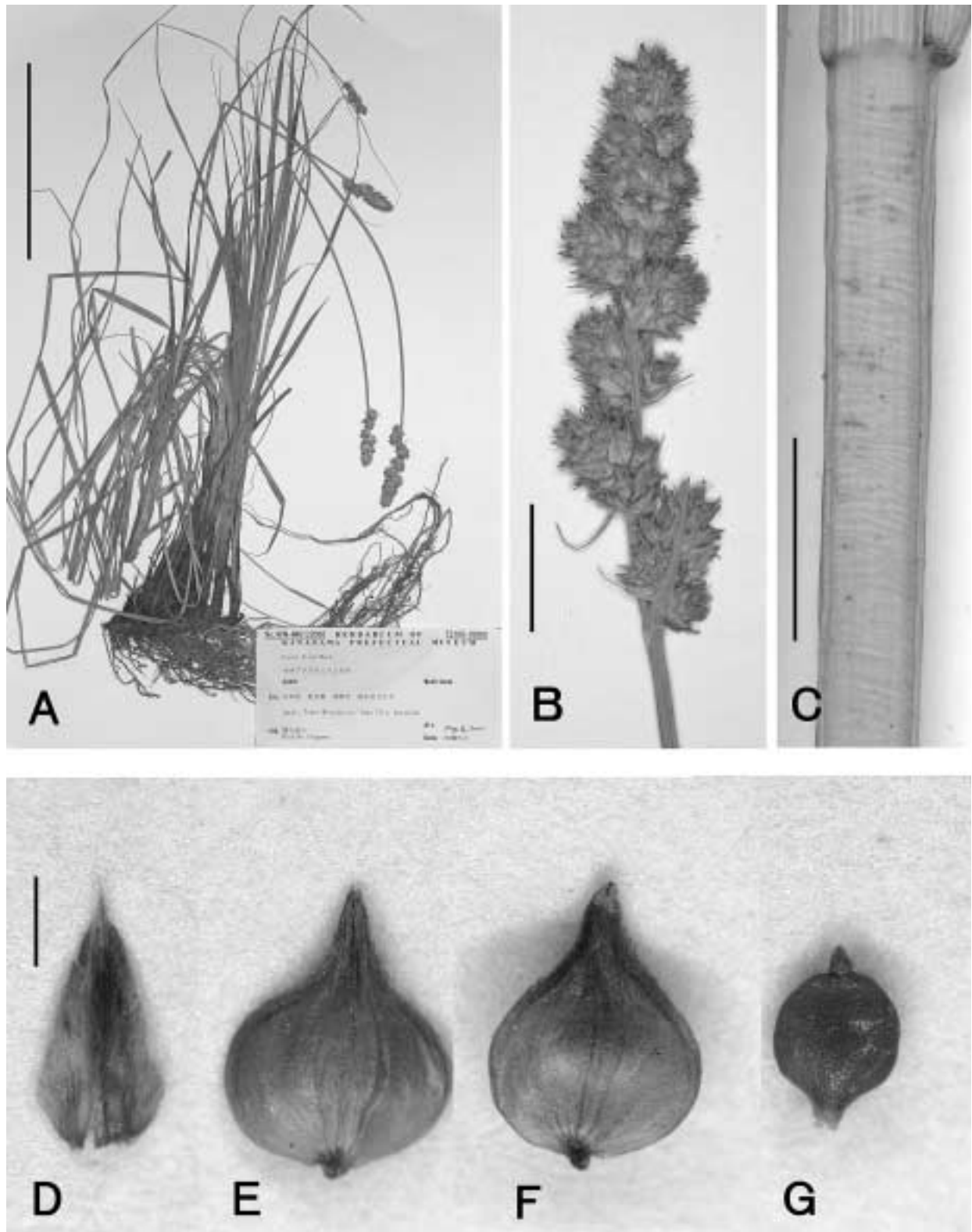


図3. オオアメリカミコシガヤ *Carex fissa* Mack.

A: 全形. B: 花序. C: 鞘(腹面). D: 鱗片. E: 果胞(背面). F: 果胞(腹面). G: 瘦果. スケール, A: 10cm, B: 1cm, C: 5mm, D-G: 1mm.

Fig. 3. *Carex fissa* Mack.

A: Plant. B: Inflorescens. C: Sheath.(ventral view) D: Pistillate scale. E: Perigynium (dorsal view). F: Perigynium (ventral view). G: Achen. Scale, A: 10cm, B: 1cm, C: 5mm, D-G: 1mm.

摘 要

勝山輝男, 2002. カヤツリグサ科スゲ属の 3 種の日本新産帰化植物. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (32): 1-6. (T. Katsuyama, 2003. Three New Naturalized Plants of *Carex* L. (Cyperaceae) in Japan. *Bull. Kanagawa prefect, Mus. (Nat. Sci.)*, (32): 1-6.)

東京都多摩市と川崎市麻生区の新興住宅地から *Carex aenea* Fernald, *C. gravida* L.H.Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J.Herm., *C. fissa* Mack. の 3 種のカヤツリグサ科スゲ属の日本新産帰化植物が採集された。それぞれ和名をタマノヤガミスゲ、サヤシロスゲ、オオアメリカミコシガヤと新称して報告する。いずれも北アメリカ原産で、斜面の緑化に使われた牧草種子に混入して持ち込まれたものと推定される。

(受付 : 2002 年 10 月 15 日 ; 受理 2003 年 1 月 24 日 .)